

# 『一生懸命』幻の新座市議会報告第207弾!



たかむらともや

## ③ 総選挙

自民党の総裁選の前はあれだけテレビが騒いだのに、国民が投票できる総選挙になった途端、選挙のことは余り報じられなくなるのだから何か嫌な力が働いているとしか思えないのは僕だけかな・・・。

コロナ禍の2020年だけで3400床も病床を削減してきた安倍・菅政権に国民はどれだけ苦しめられてきたのか「自宅療養」で亡くなった方達が可哀そうでなりません。

病床削減、医療費削減の背景には「緊縮財政」の考え方があります。「国の借金」というありもしないものに振り回されて、プライマリーバランスの黒字化を目指す政権には、自公であれ、連立政権であれ、政権を担う資格はありません。

日本はデフレで経済成長が止まっているのです。消費税を0にして、まずは財政出動するという考えがないと、日本のGDPは益々落ち込んでいき、我々の賃金も下がり続けていくでしょう。財政出動という意味では「自國通貨建ての国債は破綻しない」とする自民党の高市早苗やれいわ新選組の山本太郎の主張は正しいのです。

ところが、自民党の党首、岸田文夫の最後の訴えは「経済活動を取り戻す」です。

安倍晋三の「日本を取り戻す」と雰囲気が似ています。日本の経済をここまで破壊してきた自民党が「経済活動を取り戻す」と総選挙で訴えるのはチャンチャラおかしいと思います。勿論、その経済活動が国民の為の経済活動ではなく、グローバリストや新自由主義者達の為の経済活動であるなら筋は通っているのですが・・・。

今回の総選挙、自民党がいくら議席を減らしても、単独で過半数いたら自民党の大勝利です。デフレとコロナで国民の生活がボロボロになっている今、TVを上手にコントロールして投票率を下げ、組織票のある党が票を稼ぐ。自民党の単独過半数ではこれから4年間が本当に恐ろしい・・・。

2021年10月31日発行



10月末、スーパー公園で「たかやん！」と声を掛けられました。東久留米でいつも笑顔で登場する隼人君と聰美ちゃんです。

## たかやんのプロフィール



本名たかむらともや  
新宿区立西戸山中、  
石神井高、北海道大  
庭球部卒。小中高大と  
超問題児だった。

小学校時代はPTAの  
おばちゃん達に特に  
嫌われていた。卒論を出さずに大学を卒業。  
新設新座五中の3年4組の担任なる。21年間  
担任を続け「一生懸命」という学級通信を毎  
日書き続ける。この「一生懸命」はその続編。

専門は理科だが、国語・数学・英語・体育などの先生が足りない時はどんな教科も理科と同時にこなした。最高で週に40時間(笑)。  
残業時間は月に300時間を超えることも。

現在は石神三丁目ウェルパーク前の「たか  
やん塾」で小中高校生達と共に学んでいる。  
身長175cm、体重68kg。体脂肪率は12%。  
血液型はB型。ドラゴン桜でいうと拡散型。

新座市議になって18年目。駅立ちをはじめて16年。黒目川の川掃除をはじめて15年。

写真は僕のテニスの師匠の半ちゃん。

たかやんの連絡先 自宅 042-456-8869 携帯 090-6497-5737

takayanchan@outlook.jp

〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

## ③ 集会所の話

この9月議会でも集会所の予約が町内会優先になっていることに対する疑問を並木市長にぶつけました。

市民の税金で建設した集会所は市民の財産です。任意団体である、町内会の持ち物ではありません。管理委託をしていましたとしても、それと優先利用とは関係ないはずです。**町内会の予約は3か月前で、一般市民は1か月前という今**のルールは明らかにおかしいのです。

昔、須田市長と「市の広報」の配布で戦いました。**町内会のあいまいな会員数**に対しての補助金、そして市の広報配布を1部30円で町内会に委託し、町内会に入っている市民だけに配布していたことに異議を唱えたのです。広報を読めない市民の税金が町内会に流れていることに対する疑問を町内会の収支報告書を何年分も調べて市長に何度もぶつけたのです。

その結果、須田市長は「広報の全戸配布」を約束し、今は全ての市民が市の広報を読める環境になりました。

**集会所も同じです。町内会が3か月前に予約ができ、一般市民は1か月前にならないと予約ができない**という現状は変えないといけません。

市民の税金で建てた「集会所」なのですから、新座市民なら誰でも「平等」に使えなくてはおかしいでしょう。「管理委託」する団体に「優先して貸し出す」などあり得ない話ですから……。

全ての市民が平等に集会所を予約できるようになるまで、この問題は取り上げていきます。下は六中テニス部が初めて全国優勝した時の写真です。若い（笑）



## ③ デジタルファシズム

最近読んで一番ショックを受けたのが、堤未果の「デジタルファシズム」という本です。

この本の表紙にはこういうタイトルが書かれています。「日本の資産と主権が消える」「街も給与も教育も米中の支配下に！？」、「この国を売っているのは誰だ」さらに、「**全国民必読！日本の心臓部が米中資本に売られる！亡国のデジタル改革を緊急レポート！**」

「10年前に米国が描いた”日本デジタル化計画」「各国が警戒するウェブ会議ツールzoom」「韓国と手を組んだゆうちょ銀行の信用スコア」「paypayに日銀が融資！？」、「デジタル化で地方自治体が解体される」「企業による企業のためのスーパーシティ」「2024年にタンス預金は没収される」「デジタル給与で外資が笑う」「最終ゴールは世界統一マネー」

「密かに緩められている個人情報保護のルール」「AIがお腹の赤ちゃんの信用スコアを決める」「GIGAスクール構想はGAFAのドル箱」「生徒達の個人データをGoogleが収集」

「公立学校の敷地に5G基地局」「教師は全国で各教科につき1人でいい？」とまあ、ショッキングな見出しが続くのです。

これを読むと、2021年5月12日に国会を通過した「デジタル改革関連法」(63法)の怖さも理解できると思います。デジタル庁の怖さも、マイナンバー制度の恐ろしさも分かると思います。マジでヤバいから……。

